

大草谷津田いきものの里自然観察会

みずぬるむいきものの里

田井中 信子（千葉市）

日時：2011年3月6日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：31名（男10名、女10名、子ども11名）

担当指導者：松本美千代、田井中信子

前日行った下見の朝は、駐車場の土手に霜柱が立ち、東邦大田んぼ脇の湿地では薄氷が張っていた。幸い翌6日は二十四節気の一つ啓蟄にふさわしい好天に恵まれて、大勢の参加者を迎えることができた。

広場に帰ったところで子供がナナホシテントウを見つけ、啓蟄に相応しい観察会を終えた。広報を見て初めて来られた家族や、蛙の卵が見たくてと言う方々。先月見た蛙の卵が、どうなったか知りたくてと参加した人等。一連の蛙に関する観察会は、大草の目玉です。卵塊調査は今年もう一回行う予定だが、1月27日より3月4日の6回目で81個。原因は分かりかねるが昨年171個に比べて大変減少し心配している。

自噴井近くの田んぼから、卵、おたまじゃくしをケースに入れて観察したところで、卵から子蛙になるまでを紙芝居風にアレンジして見て頂く。また今後の観察ポイント（後足、前足の指の数、水掻き、吸盤の有無等）を話し、引き続き観察することを勧めた。



一方、水路では網ですくうと、ヨコエビ、カワゲラの幼虫、ミズムシ等が観察できた。オナシカワゲラの成虫も飛んでいた。

100段ある階段を数えながら下ん畑に向かう。

観察路脇のほとんど朽ちて一部土に還っているような丸太では、ムカデ、ヤスデ、コメツキムシの幼虫等が見つかる。朽木を餌として集まる虫もいるし、住処

として利用する虫もいる。土に還れば植物の肥料になり

無駄な物は何もないことを認識してもらおう。

広場に帰ったところで子どもがナナホシテントウを見つけ、啓蟄に相応しい観察会を終えた。

（担当者としては参加者数に比べ、網、ケース等が少なかった。備品として備えて頂けたらと思った。）

